

みやわき10年戦略ビジョン 2020-2029



2020年1月 発行

宮脇地区公民館

宮脇地区コミュニティ・プラットフォーム

【1】はじめに

宮脇地区公民館 館長 有村 留良

【2】みやわき10年戦略ビジョン策定の軌跡

1. 宮脇地区コミュニティ・プラットフォーム事業について
 - 1-1. 事業の目的
 - 1-2. 事業の基本方針と取り組み方法について
2. 「宮脇かたろかい」の実施について
3. 「みやわき10年戦略ビジョン」第一稿完成と法人設立の意義
4. 「特定非営利活動法人いっしょき宮脇」設立

【3】宮脇地区の今とこれから

1. 数字からみる宮脇地区
 - 1-1. 宮脇地区 過去の人口推移
 - 1-2. 宮脇地区 将来の人口推移
 - 1-3. 人口推移から考察
2. 語りからみる宮脇地区
 - 2-1. 「宮脇かたろかい」リアルボイス
 - 2-2. 「宮脇かたろかい」から考察～かたろかいを終えて～

【4】みやわき10年戦略ビジョン

1. ビジョン
2. 戦略の基本方針
3. 課題と戦略の実施
 - (1) 地区内サービスの民営化
 - (2) 共助社会の実現（地区内セーフティネットの構築）
 - (3) 次世代につなげる情報政策
4. みやわき10年戦略ビジョン 2020-2029 【見取り図】

編集後記

コミュニティ・プラットフォーム事業 リーダー班 班長
川口 塔子

■資料編 みやわき10年戦略ビジョン推進体制図

【1】はじめに

”Do Genka Sui ga”

全国的に過疎・高齢化が進行し、人口減少とともに家族形態の変化や地域連帯感の希薄化から自治会及び組織等への加入者が減少するなど「地域力」の低下が懸念され、戦後生まれの団塊の世代が後期高齢化時代を迎える2020年代以降はその進行がさらに加速するとみられます。

このような情勢に対して、宮脇を「どげんかせんとならん」という想いだけでなく「宮脇をどげんかすいが」という行動に移行すべく、2018年度に南九州市コミュニティ・プラットフォーム事業を導入し、地区課題等を提供いただく場「宮脇かたろかい」を開催して拝聴した意見をもとに「人・もの・ふるさと」づくり等課題解決に向けた今後10年間の事業計画を策定いたしました。この計画が一步でも魅力ある地域づくりにつながることを願っています。

また、この計画を具体化していく活動組織として、「特定非営利活動法人いっしょき宮脇」が設立されました。地区の方々のご理解・ご支援をいただきながら「雨にも 風にも 雪にも 夏の暑さにも負けず」大きく成長することを期待します。

結びに、この計画策定に際し、2018年度、2019年度の2年間参画いただいた、コアメンバーを中心とする若い世代の方々に心から厚くお礼を申し上げます。

2020年1月
宮脇地区公民館 館長 有村 留良

【2】みやわき10年戦略ビジョン策定の軌跡

1. 宮脇地区コミュニティ・プラットフォーム事業について

1-1. 事業の目的

全国的に少子高齢化とともに家族形態の変化、自治会等の組織体制の低下が懸念されています。宮脇地区に於いても同様に自治会間の人口格差が拡大し、少子高齢化の波が押し寄せているのが現状です。これらの問題に対応するために、地域にある資源を最大限に活かしつつ、自立した地域社会を構築できるような地域づくりについて検討していく必要があります。

具体的な取り組みとして、宮脇地区が南九州市コミュニティ・プラットフォーム事業の「モデル地区」となって推進していくものです。（参考：潁娃地域では宮脇地区、知覧地域では松ヶ浦地区、川辺地域では高田地区がモデル地区となっている。）

事業の目的は、宮脇地区内自治を推進することであり、その為の「みやわき10年戦略ビジョン」をここに策定し、これを実現していくこととします。

1-2. 事業の基本方針と取り組み方法について

宮脇地区では独自の進め方で事業に取り組んでおり、派生して新しい動きも生まれています。宮脇地区公民館が当事業に関係性の深い宮脇地区住民に対して推進委員を委嘱し、その推進委員の中で「コアチーム・クルーチーム」や状況に応じて「戦略班・調査班」等といったより細分化された組織体制を構成し、現時点での推進委員は17名となっています。

当事業の推進委員委嘱後より、コアチームを中心にコミュニティ・プラットフォームの効率的かつ効果的な進め方について議論を重ね、その中でテーマ（仮説）を持ち課題解決に取り組むこと、課題の洗い出しをした上で優先順位をつけて着手すべきであることを判断しました。また、課題解決のために仮説を立ててヒアリングを行う必要性も出てきたことから、今後の方向性について次の段階を踏まえて進めることとしました。

Step1 可視化（2019年3月まで）

Step2 課題設定（2019年4月～6月）

Step3 課題解決法の決定（2019年8月まで）
※必要に応じて活動開始

暫定的においたテーマ：地域社会の再構築

【可視化したい分野】

- ①コミュニティ… 行事、文化、自治会の特色やプライド、集う場 等
- ②教育…………… 潁娃中学校統合、潁娃高校存続危機、宮脇小学校児童数減少 等
- ③移住・定住…… 空き家対策、地域での受け入れ体制づくり、仕事の支援 等
- ④福祉…………… 独居老人、シニアの更なる活躍、医療弱者、施設での課題 等
- ⑤農業…………… 後継者問題、販路を増やす、農地の荒廃 等
- ⑥商い…………… 国県道の賑わい、空き店舗、西潁娃駅との兼ね合い 等

上記の可視化をするために、地域資源の見える化・発掘を目的としたヒアリングを行う方法として定期的にサロンを開催していくこととしました。

2. 「宮脇かたろかい」の実施について

事業の推進に際して「みやわき10年戦略ビジョン」を策定するに当たり、地区の課題や要望を収集する必要があったため、ワークショップ形式のヒアリングサロン（通称：宮脇かたろかい）を2018年10月～2019年3月の間で開催しました。可視化したい分野をサロンのテーマとして、宮脇かたろかいを計12回開催し、対象人数の目標を宮脇地区民の約10%に当たる200名に設定し、地区民延べ245名の声を聴くことができました。ここで洗い出された課題や要望をもとに「みやわき10年戦略ビジョン」の策定に動き始めました。

3. 「みやわき10年戦略ビジョン」第一稿完成と法人設立の意義

「みやわき10年戦略ビジョン」策定のため、「宮脇かたろかい」終了後、2019年4月～8月の間、地区民から出された地区の課題や要望等を一つ一つ分類し、情報整理を行いました。2019年8月に「みやわき10年戦略ビジョン」の第一稿が完成し、10年後の宮脇地区では「自立型地域社会による共助と共創の実現」をビジョンとすることが決まりました。「宮脇かたろかい」で出てきたニーズをサービス化し、持続的に提供するには既存の組織では難しく、民間の運営組織を立ち上げる必要性が出てきたため、「特定非営利活動法人いっしょき宮脇」を立ち上げ、実働組織として位置づけることとなりました。

4. 「特定非営利活動法人いっしょき宮脇」設立

この特定非営利活動法人（NPO法人）は、宮脇地区民に対して暮らしを豊かにする幅広い分野でのサービス・コミュニティ運営に関する事業を行い、自立型地域社会による共助と共創の実現に寄与することを目的として2019年12月12日に設立しました。

2020年からの本格的な事業の実働スタートに際し、実働第一弾として、法人立ち上げに向けて地域の士気を高めるため、2019年11月16日に「みやわき☆マルシェ」を、地区青年団と三俣通り会を中心に開催しました。2回目となる今回のマルシェでは、「宮脇かたろかい」の意見を反映し、地域住民参加型となるよう趣向を凝らしました。

今後、このマルシェは「いっしょき宮脇」の象徴的なイベントとして機能させ、地域内の協働や連携を加速させる機会としていく予定です。

【3】宮脇地区の今とこれから

1. 数字からみる宮脇地区

過去と将来の地区の人口推移から宮脇地区の現状把握と未来予測を行いました。

1-1. 宮脇地区 過去の人口推移（自治会別：各年12月末データ）

（単位：人）

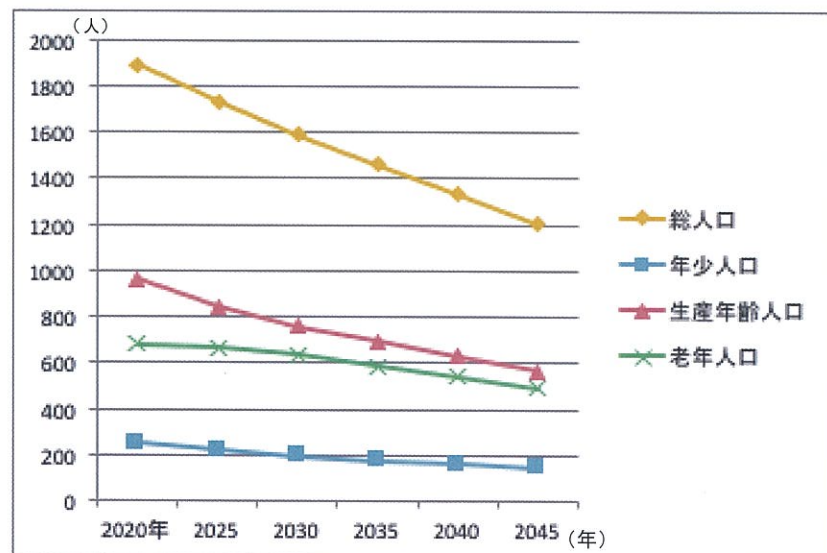
		三俣	高取	下門	中村	水之元	春向	山脇	下藺	伊瀬知	赤崎	合計
2009年	世帯数	244	120	89	107	22	149	76	45	32	41	925
	人口	631	259	192	261	53	356	193	110	85	77	2217
2014年	世帯数	245	104	84	103	23	153	72	47	33	34	898
	人口	624	233	185	226	51	365	169	99	84	57	2093
2019年	世帯数	248	96	69	104	19	148	68	44	30	23	849
	人口	591	187	148	218	41	347	148	87	74	38	1879
10年間の増減	世帯数	4	△ 24	△ 20	△ 3	△ 3	△ 1	△ 8	△ 1	△ 2	△ 18	△ 76
	人口	△ 40	△ 72	△ 44	△ 43	△ 12	△ 9	△ 45	△ 23	△ 11	△ 39	△ 338
《参考》65歳以上の割合		21.5%	43.9%	32.4%	40.1%	39.0%	40.6%	46.4%	39.3%	36.4%	61.9%	35.0%

1-2. 宮脇地区 将来の人口推移（年齢三区分別）

（単位：人）

	実測	予測値					2020～ 2045年 減少率
	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	
総人口	1,892	1,732	1,589	1,459	1,333	1,206	36.3%
(2020年比)		△ 160	△ 303	△ 433	△ 559	△ 686	
年少人口	252	219	195	178	163	147	41.7%
生産年齢人口	961	845	760	695	629	567	41.0%
老年人口	679	668	634	586	541	492	27.5%

※2016年1月「南九州市人口ビジョン」をもとに、宮脇地区の2020年実測値に減少率を乗じた予測値



1-3. 人口推移から考察

- 宮脇地区の人口は、この10年でおおよそ16%減少しておりますが、今後20年程度は同様のペースで減少し続ける見込みです。
- 現時点で世帯数が50に満たない小規模自治会が4割を占め、高齢化率が40%を超える自治会が半数に達しております。
- 現在の老年人口割合は35%強ですが、2030年を経過する頃には40%を超えると予想され、高齢化に拍車がかかることは明確であります。一方で自治会によっては既に60%を超えている地域もあり、自治会間格差の更なる拡大や、自治会の存続そのものが危惧されます。
- 年齢区分別では年少人口の減少率が最も高く、宮脇小学校の生徒数もこの5年間で3割ほど減少しております。

2. 語りからみる宮脇地区

「宮脇地区の地域社会の再構築」を図るための手がかりを探るべく、可視化したい6分野を複合的にトークテーマに設定して地域の声进行いただく会「宮脇かたろかい」を開催しました。

「宮脇かたろかい」実施概要

実施期間：2018年10月～2019年3月
 実施回数：12回
 聴取人数：延べ245名（地区民の約10%以上）
 形式：ワークショップ形式

2-1. 「宮脇かたろかい」リアルボイス

下記は、実際に「宮脇かたろかい」で聴取した地区民の声の実録です。

【自治会】

「自治会単位のバランス（人数割）の悪さや自治会間の格差があるから、個々の負担が大きくて不公平なので、自治会そのものの存続性が問題だ。」
 「イベントを新しく立ち上げてみたい！そうすれば、各世代間の起爆剤になるね。」
 「性別によって役割が決められていて大変だよね。」
 「人口が減ってきているので、コバレ（草払い）や行事を続けるのが難しいなあ。」
 「他の自治会と合同で行事などを行うことが難しく感じています。」
 「子どもたちや青壮年部が少ないから、負担が多くなります。」

【交流】

「地域の人や農家さん同士のふれあいの場所や機会が少ないです。」
 「カフェや図書館などのサロンのような、集えて、くつろげる居場所があれば、地域交流が増えるんじゃないかと思います。」
 「社会参加を促す交流の場づくりができるといいね。移動販売や健康相談もできるような。夢が広がるね。」

【 空き家 】

「貸主と借主と引き合わせて、調整する人がいるといいなと思います。」
「空き地・空き家情報がほしいです。
インターネットで情報収集や提供ができる『空き家・空き地バンク』があるといいのですが。」
「相続人への連絡がつかないよね。」
「家財整理ができないから、人に貸せないんですよね。」

【 農業 】

「既にある建物を有効活用して販売すれば、みんなが集まれると思います。」
「野菜の無人販売所を集約して集客力を上げるといいんじゃないかなあ。
“道の駅”風に。」
「後継者不足が深刻だから、法人化による合理的に経営はできないかと考えます。」
「農地は荒れる一方だ。地区として意向調査をした方がいいよね。」

【 こども 】

「高齢者世代と子育て世代の交流ができないかなあ。コスモス植えや地引網なんかをやって交流している自治会もあるよ。やっぱり、異世代間が交流したり、ふれあう機会を増やすことが大事だよね。」
「米づくりとか、田植えとか、昔ながらの体験を、遊び感覚で経験者から教わって、コミュニケーションをとれるといいと思います。」
「子どもの習い事が市外にしかないことが多いから、送り迎えとか大変です。」
「子どもたちの遊び場がないから、公園があったらいいなあ。」
「お菓子作り、野菜作り、漬物作りなんかを、じいちゃん、ばあちゃんから教えてもらう場所があったらいいですよね。」

【 高齢者 】

「高齢者が多いので、買い物とか通院とか行き来が大変。足が不自由な方のための“ふれあいバス”のような車両や移動販売があれば、家の前まで来てくれて便利だし人とのつながりも生まれていいね。」
「独居老人や一人暮らしが多い地域への声かけや見守りが必要だなあ。地域で見守りたいけど、個人情報との壁があると感じます。」
「ワンコイン（500円）福祉基金をつくるなどして、高齢者福祉を見直す必要があると思います。」

【 インフラ 】

「下校のときに街灯がなく、暗いところがあるな。」
「トイレ問題は、どうにかしたいです。公共トイレが少ないですよね。」
「道路がせまいところがあるので、消防車が入れないです。」

【 情報 】

「農業に関わる人や元気な高齢者が活躍できるような『人財バンク』制度を確立できないものでしょうか。得意分野を地域に還元できるからいいですよね。」
「デジタルとアナログによる広報の必要があると思います。」
「安否確認も含めた連絡手段（SNS発信）の“宮脇地区版”があるといいですね。」
「名所・体験などの魅力をPRするマップや広報誌があるのは重要だよね。貴重な情報源だから、もっと欲しいな、と感じます。」
「行事のやり方をアーカイブ（記録保存・活用）化しておかないと、次の世代に残せないですよね。」

【 防災 】

「防災に関する情報があるといいなと思います。」
「役場より災害マップが配布されているけど、周知が不十分な感じがします。」
「自主防災体制への不安があります。」
「自治会と消防団の連携と役割分担の再確認をする必要があると思います。」
「過去に大きな災害を経験したことがないから、大規模災害の対応を考える必要がありますね。」
「災害別の避難訓練をやった方がいいかもしれませんね。」

2-2. 「宮脇かたろかい」から考察 ～かたろかいを終えて～

「宮脇かたろかい」を開催したことにより、宮脇地区内の課題やニーズを洗い出すことができました。これらの課題を解決するための**3つの基本方針**を設定しました。

① 地区内サービスの民営化

少子高齢化に伴い、“自治会そのものの存続性が問題だ”など、地域住民から寄せられた困りごとを解決するためには、既存の組織では解決することの限界を感じました。そこで、多様化するニーズや複雑化する課題に対応するために新たな住民サービスを提供すべく「**地区内サービスの民営化**」という方針を掲げることとなりました。

② 共助社会の実現（地区内セーフティネットの構築）

いちばん多く出た意見が“サロンの集う場所がほしい”だったことを踏まえ地区内の空き店舗を活用した“学び合い・集いの場”づくりを行うコミュニティづくりを目標のひとつにしました。このように、地域住民同士が日常的な“つながり”を強化することが、結果的に、未曾有の災害に対応することができるという考えのもと、ともに手を携えて進む社会をつくることを目的とした「**共助社会の実現（地区内セーフティネットの構築）**」をめざすことにしました。

③ 次世代につなげる情報政策

“行事のやり方をアーカイブ化しておかないと、次の世代に残せない”といった地域に根ざした伝統行事や暮らしのしきたりが蓄積されていないという課題を解決するために「**次世代につなげる情報政策**」を掲げることにしました。

具体的には、現代の情報媒体を導入し、丁寧な情報収集や地域内調査を行いながら、地区内の誰もが、ITデバイスで一元管理された情報を共有できるようにします。さらに“空き家・空き地・空き店舗・農地バンク”にまとめたり、“宮脇版”の情報媒体にまとめたりすることで、地域住民同士のマッチングを円滑に行えるようになることを考えました。

これら3つの方針を「みやわき10年戦略ビジョン」の柱に据えて、「**自立型地域社会による共助と共創の実現**」をめざすに至りました。

【4】みやわき10年戦略ビジョン

1. ビジョン

自立型地域社会による 共助と共創の実現

従来は行政の管理下で活動することが多かった地域活動。
今後は、地域サービスの民営化のもと、
地区民がサービス提供側にも受益者側にもなる
新しい社会システムの構築を目指します。
未曾有の危機にも対応できる共助の社会を実現し、
地域総力戦で心地よい地域を共創することを目標とします。

2. 戦略の基本方針

宮脇かたろかい等で可視化した現状課題を踏まえ、
下記の3本柱を戦略の基本方針として掲げます。

(3) 次世代につなげる 情報政策

現代社会の情報受発信と地域とのねじれ
を解決すべく、新しい情報技術やサービ
スを地域に導入していく。

(2) 共助社会の実現 地区内セーフティーネットの構築

未曾有の災害・危機に備え、日頃の共助
・共生のコミュニティを育む。
居場所づくり、学びの機会の創出、
3人組制度の整備など、つながりを多く
生む事業を展開。

(1) 地区内サービスの 民営化

多様化する住民ニーズに合致する
高度なサービスを迅速に提供するため、
地区内で民営サービスの実施。
新法人設立、自主運営システムを構築。

3. 課題と戦略の実施

(1) 地区内サービスの 民営化

【考えられる現状課題】

行政管轄下の集落自治が基本であるため、
住民ニーズに合致する高度なサービスを迅速に提供できない。

【主な解決方法】

- ・地区内サービス提供のための自主運営組織（NPO法人）を新設。
- ・地区内で自主財源を確保する。（寄付金制度やスポンサー制度導入）
- ・地区内サービスの主体者（宮脇コーディネーター）を配置。

【具体的な実施事項】

◆活動団体の立ち上げ

2019年12月に、地域サービス運営団体「特定非営利活動法人いっしょ
き宮脇」を設立しました。この団体では、本戦略に記載している実施事
項を、より迅速に、地域のニーズに合致するよう、提供するよう運営し
ていきます。

◆寄付制度の新設

地区内サービスの提供のため、地域住民と地区内企業から寄付という形
で資金を募ります。

◆スポンサーの導入

地区外の企業を中心に、広告・宣伝費に該当する枠を募り、外貨で資金
を確保する仕組みをつくりまします。

◆宮脇コーディネーター事業

地域サービスの提供や運営をする専属スタッフを配置します。
運営に携わるコアスタッフと、専門家スタッフの枠組みを設け、地域で
ニーズがあった際は、対面・電話・LINEでの相談対応も行う予定です。

◆居場所や拠点づくり／動く拠点整備

地区民が集える新しい拠点を整備しつつ、地区内の既存施設（各公民
館・飲食店等）をもっと自由につかえるよう拠点登録（ネットワー
ク化）します。

併せて、キッチンカーなど、動く拠点を整備し、誰もが拠点を利用でき
るようになります。

(2) 共助社会の実現 地区内セーフティーネットの構築

【考えられる現状課題】

地域として未曾有の事態を経験していないこともあり、防災、福祉的支援分野の体制が整っていない。
緊急時に迅速に対応できるだけの、共助の考え方、制度を醸成できていないと考えられる。

【主な解決方法】

- ・自主運営コミュニティ（学び・夢実現）を多数生む仕組みをつくり、日頃のコミュニケーション量を強化する。
- ・専門家人材を囲い込み、地域内要請制度をつくる。
- ・3人組制度などの、自主防災・福祉の取り組みを行う。

【具体的な実施事項】

◆専門家人材ネットワーク事業

新規事業の「学びのコミュニティ」の講師や、地域内の相談対応など、スポットで対応してもらえる医療、福祉、教育の専門人材を確保します。

◆3人組制度

地区内のセーフティーネットづくりの強化制度。
独居世帯（高齢者のみならず単身者も含む）が、近隣の2世帯とグループになり、緊急時の対応を行う制度です。
数年かけて3人組制度を推奨し、基本的には、本人たちの意思でグループ登録をしてもらう予定です。自力でグループができない場合は、宮脇コーディネーターによるマッチングも行います。

◆人財バンクづくり

アクティブシニアを中心とした、人財を各世帯等に派遣できるよう仕組み化します。初期の運用は紙媒体での管理とし、徐々にデータをWEB上で管理できるようなシステム体制を整えます。

◆学びあい・実働コミュニティの設置

地区内で学びや小商いを行うコミュニティづくりを行います。
宮脇コーディネーターが世話役を担い、本来繋がれなかったであろう地区民同士を繋げ、地区内外の講師やアドバイザーをマッチングします。公民館や飲食店などをネットワーク化し、通常より安価で利用できるよう整備します。このコミュニティ活動を、災害時の共助に役立てます。

(3) 次世代につなげる 情報政策

【考えられる現状課題】

- ・現代社会の情報受発信手段と、地区内での受発信手段にねじれが起きている。（既存媒体：自治会放送・紙媒体のみであること）
- ・地域内での暮らしにまつわること、しきたり、情報が口頭伝承となっており、ノウハウが蓄積されていない。

【主な解決方法】

- ・現代の情報媒体を導入し、情報受発信の補完措置を行う
- ・情報の丁寧な収集を行い、一元管理しながら、誰もが簡単に情報を引き出せる方法で保存をする。

【具体的な実施事項】

◆地域内調査の実施

地域内自治に関連するものや、新しい事業をつくるために現状明らかになっていないものについて、調査を行います。
調査の大分類としては、下記のとおりです。

1. 福祉（子供・高齢者）
 2. 農業
 3. 集落
 4. 防災
- 必要に応じて、アドバイザーとして専門家に調査を依頼します。

◆LINE公式アカウントの導入

LINE株式会社のサービスで、団体から個人に発信ができるLINE公式アカウントの導入を地区内でスタートさせます。
目的は、情報発信手段を増やすこと、若い世代に確実に情報を届けること。自治会放送を文字で配信することからスタートさせます。

◆宮脇版ハザードマップの作成

南九州市のハザードマップを参考に、宮脇地区の自主防災を強化する観点から、災害別の独自のマップを作成します。行政や消防署・地区の消防団と連携をとり製作していく予定です。

◆行事などの情報のストック（ITで一元化管理を見据えて）

現行の行事やしきたりなどを、動画・画像・文章で記録していきます。
内容はデジタルで保存し、地区民がいつでも引き出せるように管理します。

		(1)地区内サービスの 民営化	(2)共助社会の実現 セーフティーネットの構築	(3)次世代につなげる 情報政策
2020	【前期】	テーマ		
2021		基盤をつくる	◆専門家人材のネットワーク化 ◆人材バンクづくり ◆学びあいコミュニティの設置 ◆地域拠点を結びつけネットワーク化する	◆地域内調査の実施 ◆LINE等コミュニケーションツールの導入 ◆SNSにて共通#の導入 (情報を数珠つなぎにまとめておく)
2022		基盤を 定着させる	◆寄付金制度の定着 ◆スポンサー制度の定着 ◆拠点での本格飲食サービスを展開	◆SNSでの地区内の情報を発信 ◆マスコミ等への定期発信 ◆高齢者へのスマホ等の講座を実施
2023	【中期】			
2024		サービスや 関わり範囲 を広げる	◆新規雇用の創出	◆買い物弱者への対応 ※キッチンカーをつかった施策
2025				◆空き家・空き地・空き店舗・農地の 情報をまとめたバンクを整備する ◆防災や集落の情報をまとめた独自の情報 媒体を整備完了
2026		高度な課題 ニーズに 応える	◆医療サービスの誘致	◆交通インフラ（高齢者の足の課題）解決 例：乗り合いタクシー等
2027			◆自主運営コミュニティから起業が生まれ る。	◆宮脇版ハザードマップの整備完了 ◆行事などの情報がITによって一元管理 できている状態
2028	【後期】	社会と 地域の ギャップ0 へ	” 有効な経済資源が、 自然と集まってくる状態に” →住民の要望に合致したサービス等を NPO法人等で迅速に対応できている状態。	” 高度な技術を活かした 見守り社会の実現” → 新しい技術やサービス形態を 積極的に取り入れ、都会と地方の サービスの質のギャップを埋める。
2029				” 世代間の情報格差を縮め 新しい技術で生活を豊かにする” → 年齢による情報媒体やその操作の格差 を縮めるための施策を行い、新しい技術 を取り入れやすい地域をつくる。

宮脇のことを何百時間、語り合ったのだろうー。
毎週のように顔を突き合わせることで約1年半。
ここようやく、多くの地区民の方にお示しできる冊子ができあがりました。

私がこのまちに移住してもうじき3年が経とうとしています。気がつけば、この3年間の半分以上の時間を宮脇地区のまちづくりに費やしていました。辛くなかったという嘘になりますが、幸いにして最高の宮脇の仲間恵まれ、かけがえのない時間を過ごせたと思っています。メンバーの中で一番若輩者の私を信頼してついてきてくださったこと、本当に感謝がありません。

宮脇かたろかいを通して感じたのは、宮脇の一番の資源は「多様な人財」だということです。様々な背景を持つスキルを持った人々が、唯一無二の結束力を発揮するそれが宮脇です。
そんな宮脇地区に移住してきたことを私は誇りに思っています。
新たな法人「いっしょき宮脇」では大好きな宮脇のみなさんと”ともに”次の時代に向けて準備を進めていきたいと思っています。

最後に、わが町と真剣に向き合う機会と素晴らしい仲間との出逢いを導いてくださった有村館長に心からお礼申し上げます。

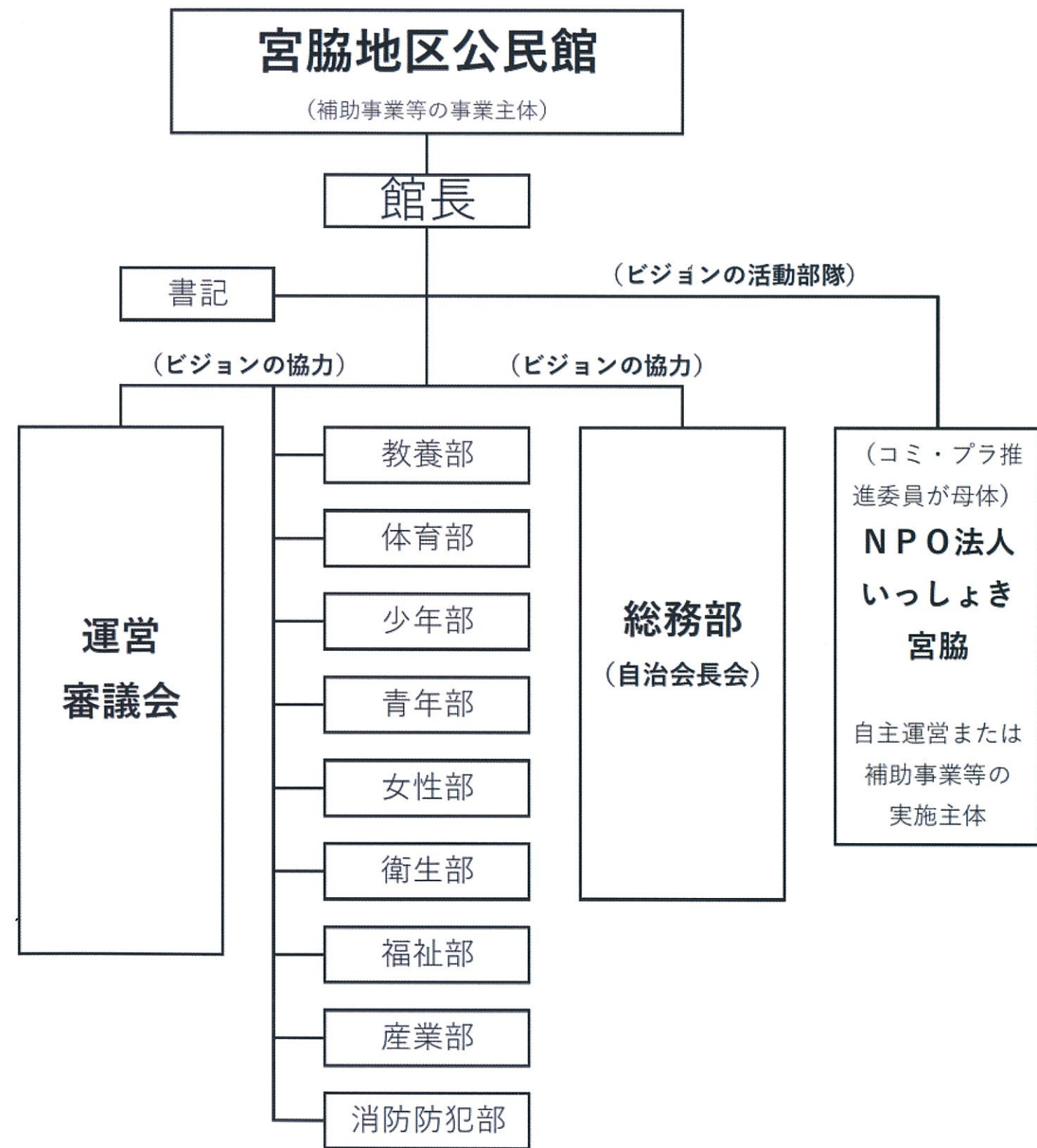
2020年1月

コミュニティ・プラットフォーム事業
リーダー班 班長

川口 塔子



■資料編 みやわき10年戦略ビジョン 推進体制図



Miyawaki

